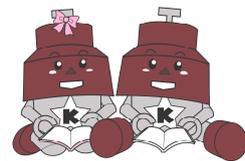




川口市立図書館 図書館だより



パソコン用ホームページ URL <http://www.kawaguchi-lib.jp/>

携帯電話用ホームページ URL <http://www.kawaguchi-lib.jp/opw1/IMD/IMDMAIN.CSP>



QRコード →

わたしの今年の一冊 2017

昨年お読みになった本の中で、印象に残った一冊をあげていただく「わたしの今年の一冊」は、今回で 22 回目となりました。たくさんのご応募をいただきましたが、紙面の関係で 21 点、掲載させていただきます。

「バッタを倒しにアフリカへ」

前野ウルド浩太郎／著

光文社 2017 年刊 486.4/マ

インパクトのある表紙(緑色に顔をぬり緑の衣装を身にまとい、捕虫網をかまえる著者)にひかれて読み始めました。モーリタニアでサバクトビバッタの研究をするバッタ研究者の話。アフリカでの研究生生活やポストドクのことも赤裸々書かれていておもしろかった!! (50代 女性)

「図書館は、いつも静かに騒がしい」

端島凜／著

三交社 2017 年刊 B913.6/ハ

何気なく利用してきた図書館ですが、この本を読んで、本の修理等裏方の仕事やお客から質問に答えるべく努力している姿等を知りました。全体的に明るい感じで読後感も良かったです。図書館に働く人たちに親近感を覚えました。(30代 女性)

「銀河鉄道の父」 門井慶喜／著

講談社 2017 年刊 913.6/カ

この本では、宮沢賢治の生涯を賢治の父親の目線で描かれています。父親は、病気の息子の看病のために病院に泊まりこむ程愛情深い人です。子どもの頃は石っ子賢さんと呼ばれた賢治の人間味を感じることができ、弱さも含めて賢治のことが好きになりました。(50代 女性)

「蜜蜂と遠雷」 恩田陸／著

幻冬舎 2016 年刊 913.6/オ

文章を読んでいるのにクラシックが聞こえているように感じた。こんな事は、初めてでした。すごい!!と思いました。(50代)

上下二段組みでしかもぶ厚い。でもおもしろくて一気に読んでしまった。クラシックの有名な曲がたくさん出てきて、コンクールの一次・二次・本選で演奏される。その解釈がとても興味深かった。読みながら、音楽にどっぷり漬かれるのもこの本の魅力だ。あと、だれかの失敗で予選通過でなく、それぞれがベストを尽くすのもよかった。(年齢性別不明)

「チュペローズで待ってる」 AGE22, AGE32

加藤シゲアキ／著

扶桑社 2017 年刊 913.6/カ

普段は隠されている他人の弱さや汚い部分をこれでもかと思せられ辟易したが、思いもよらない展開の連続に読む手が止まらなかった。すべての伏線が回収された衝撃のラストには、人の繋がりと愛を感じた。エンタメ小説でもあり、「人間」が細部まで描かれた純文学でもある、一冊で二度おいしい作品。(20代 女性)

「ひょうたん」 宇江佐真理／著

光文社 2005 年刊 913.6/ウ

江戸時代、下町の庶民の日常がていねいに描かれており、登場人物が目前にいるように思えて、現実感が高い。現代にも通じる人情や正義感のようなものが快い。(60代 女性)

「よるのばけもの」 住野よる／著
双葉社 2016 年刊 913.6/ス

「君の臍臓をたべたい」で有名な住野よる先生の 3 冊目の作品。夜になるとバケモノになってしまうという、非現実的な設定のもとで描かれるリアルな主人公の心理描写。「まわりの空気にながされ、自分の望んでいない行動をしてしまう」だれしも子供の頃経験したことがある、弱い主人公の心の成長がとても心にひびいた。(20 代 男性)

「ユートピア」 湊かなえ／著
集英社 2015 年刊 913.6/ミ

読後にこれだけ題名と内容にギャップを感じる作品はあまりないだろうと思う。登場人物の思いが錯綜して、最後は思いがけない展開が待っている。それでも話の筋が一本につながり、ああそうかと合点がいく。ユートピアとは作者にとって何なのだろう、読者に何を伝えたかったのだろうと今も考えてしまう。(50 代 女性)

「一瞬の風になれ」 佐藤多佳子／著
講談社 2006 年刊 913.6/サ

私は 50 才を機に、読書(とマラソン)を始め、各年の本屋大賞 TOP10 の作品を、片っ端から読んでいます。この作品は、部活・ライバル・友情・挫折・葛藤といった青春で味わう要素が全て詰まっています。もう一度青春を味わいたい方は是非。ヨーイ・ドン！
(50 代 男性)

「いねむり先生」 伊集院静／著
集英社 2011 年刊 913.6/イ

自伝的小説。女優だった妻を亡くし、酒とギャンブルに溺れ壊れてしまった僕は、いねむり先生こと色川武大氏に出会い「旅打ち」の旅に出る。幻想に苦しみ、そこから逃れられないサブロー君が、旅の途中での個性派面々との出会い、大きな存在である先生の影響を受けながら再生していく物語。「先生の見目は温かく、子宮の中で包み込まれるような安らぎもある」全編をとおして、この優しい視線が注がれる。(60 代 男性)

「B の戦場」 ゆきた志旗／著
集英社 2016 年刊 B913.6/ユ

久しぶりに笑えた一冊です。「ブス」な主人公と彼女を愛する男の話ですが、「ブス」を大絶賛する男の言い分が本当に笑えます。笑えちゃうので嫌な気持ちになりません。読んでみてほしい一冊です。すっきりすること間違いなし！(年齢性別不明)

「ツバキ文具店」 小川糸／著
幻冬舎 2016 年刊 913.6/オ

鎌倉で代筆をしているポッポちゃんの話。具体的な手紙の例が手書きの字で紹介されていて、無性に誰かに手紙を書きたくなり、友達にこの本を買ってプレゼントしました。続編の「キラキラ共和国」もおすすめです。(50 代 女性)

「吸涙鬼」 市川拓司／著
講談社 2010 年刊 913.6/イ

せつなくてとてもかんどうしました。私は、いろいろな本をたくさんよんできたけど、いままでよんだなかでこの吸涙鬼が一番いい本でした。それに吸涙鬼がいるならあってみたいとおもわせてくれた本でした。(10 代 女性)

「逢魔が山」 犬飼六岐／著
光文社 2014 年刊 913.6/イ

戦国時代、四国の山村の子どもたち 5 人と見知らぬ子ども 2 人がある事件に遭遇し、入ってはいけないと言いつけられた「逢魔が山」に迷い込んでしまった。子どもたちが、勇気、知恵、友情をもって助け合い、村に戻るまでの物語である。「逢魔が山」を書棚から手に取り、表紙のイラストを眺めていて、「逢魔が刻」が頭に浮かんだ。この本を読んだら、ちょっと恐くて、心ひかれるふしぎなときを感じるのかしらと思った。読んでいくうちにいつのまにか私は、この冒険談の 8 人目の子どもだった。(70 代 女性)

「君の臍臓をたべたい」 住野よる／著
双葉社 2015 年刊 913.6/ス

地味な主人公の心の変化やヒロインの理不尽な死は、予想外の展開として読者の興味をそそる。
(50 代 男性)

「オトタケ先生の3つの授業」

乙武洋匡／作

下平けいすけ／絵

講談社 2011年刊
K913.6/オ

オトタケ先生はしょうがいがあるけど、3組のみんなに笑顔になってもらいたくてじゅぎょうをしておもしろかったです。
(10代 女性)

「風のマジム」原田マハ／著

講談社 2010年刊 913.6/ハ

派遣社員として「琉球アイコム」に勤務するマジムが“おばあ”と会社帰りに立寄るバーでラム酒に出会う。その深い香りに感動し、社内コンテストに応募する。“おばあ”の厳しい薫陶と周辺の人々の協力を助けられながら南大東島のサトウキビから沖縄産ラム酒を造ることに成功する。マジムの挫折と葛藤、伝説の醸造家との出会いなど、読み始めたら止まらない。ほろりとくる面白本である。(60代 男性)

「サピエンス全史」上・下

ユヴァル・ノア・ハラリ／著 柴田裕之／訳

河出書房新社 2016年刊 209/ハ

我々とは、一体何者なのか？
人類の未来とは？人類をめぐる様々な問いに、丁寧に解説をしてくれる刺激的な一冊です。人類史にあまり興味がなかった私でも、読み始めると夢中になって、一気に読んでしまうほど、魅力溢れる作品でした。(20代 女性)

「深重の海」津本陽／著

新潮社 ほか 1978年刊 913.6/ツ

作品のテーマを追求する作者の覚悟が、まず感じられる。和歌山の大地に住む人々の捕鯨への執着と必要性、その過程での鯨への愛着と同胞への信頼と愛着、これらを大自然の優しさと過酷さを折り込みつつテーマを追求している。作家自らを磨り減らして作品を仕上げたであろうことにすごいなあと思いました。(年齢性別不明)

「裸の華」桜木紫乃／著

集英社 2016年刊 913.6/サ

ススキノで育ったストリッパーが、同じススキノでカクテルを飲めるダンスホールのお店をオープンする。バーテンダーとダンサー2人を含め4人で始めたお店には、徐々に馴染み客が付き始める。それぞれの人生が交差しながら、様々な想いを胸に1年でお店を閉めることになる。ラスト、主人公のストリッパーが、大半を過ごした横浜のダンスホールに戻っていき、その壮絶な生き様が悲しくも清々しい。(60代 男性)

「断片的なものの社会学」岸政彦／著

朝日出版社 2015年刊 914.6/キ

ふと見上げた窓に、偶然いた人に自分を重ねて思索にふける。知らない個人のブログを読む。普段は意識しない他人の人生に思いを馳せた時、誰にでも物語があることを知る。それは本を読む行為と似ている。何気なく感じていても言葉にするのは難しい感情を、代弁してもらったような本。(30代 女性)

- 「コーヒーが冷めないうちに」川口俊和 ○「おさるのよる」いとうひろし
○「南部は沈まず」近衛龍春 ○「末ながく、お幸せに」あさのあつこ
○「超訳孫子の兵法「最後に勝つ人」の絶対ルール」田口佳史 ○「秩父鉦山」黒沢和義
○「葬送の仕事師たち」井上理津子 ○「決戦！桶狭間—義元的首」木下昌輝
○「賢く元気に老いるための31の心得」立花和弥 ○「声なき蟬(上・下)」佐伯泰英
○「長英逃亡」吉村昭 ○「NATURE FIX 自然が最高の脳をつくる」フローレンス・ウィリアムズ
○「書店ガール 6」碧野圭 ○「もぐらのおまわりさん」斉藤洋 ○「下町ロケット」池井戸潤
○「騎士団長殺し」村上春樹 ○「かいけつゾロリのかいていたんけん」原ゆたか
○「フラダン」古内一絵 ○「「西洋」の終わり」ビル・エモット ○「日米「逆」の発想」脇阪昭
○「オリンピックがやってきた」堀川アサコ ○「転ばぬ先の「老前整理」」坂岡洋子 …ほか

紙面の関係で、お寄せいただいたご感想や書名のすべては掲載できませんでした。
ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

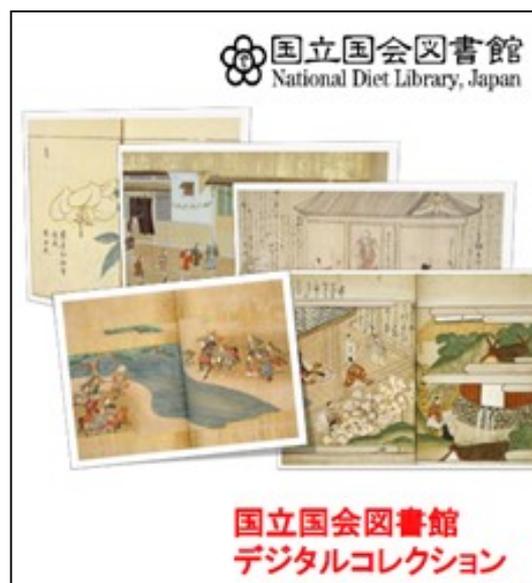
国立国会図書館デジタル化資料 送信サービスが始まりました！

国立国会図書館のデジタル化資料のうち、約 150 万点（絶版等の理由で入手が困難な資料）を中央図書館内の端末画面でご覧いただけるサービスです。

今まで図書館間貸出サービスでは借りられなかった資料も、デジタル化資料として、資料の郵送に掛かる時間などの制約がなく利用できます。また、デジタル化資料の閲覧だけでなく複写サービス（有料）もご利用いただけます。

◎利用するには？

- ・ 申込場所 中央図書館 6階 相談カウンター
- ・ ご本人の川口市立図書館利用カードが必要です。
利用カードをお持ちでない方は、現住所の確認ができるもの（運転免許証、健康保険証など）をご用意いただき、利用登録をしてください。
- ・ 1回の利用時間 60分間 次に予約がなければ延長可能です。
- ・ 受付時間
閲覧：中央図書館の開館時間中
複写：中央図書館の閉館時間の30分前まで
※複写は著作権法の範囲内で行います。複写箇所が多く時間がかかる場合は、当日にお渡しできない場合があります。
- ・ 料金 無料（複写は有料）



ご利用をお待ちしています。